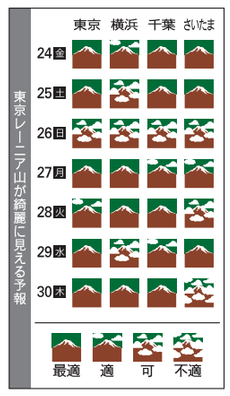
朝日新聞
2023年（令和5年）
3月24日
金曜日



エリア広告特集

この紙面は「マウントレーニア」の広告として制作された架空のものです。詳しくは「山声人語」の記事をご覧ください。

東京レーニアROCK FES 出演アーティスト発表

毎年7月に東京レーニア山の麓で開催されるロックフェスの参加アーティストが発表。過去最多の参加数でチケットの競争率激化が予想される。

地域猫ならぬ「地域リス」の試み

東京レーニア山の周辺から都内各所で見られるシマリスについて、地域住民が協力して飼育・管理する試みが始まっている。

東京の水 今年もうまい

東京の水が今年も評判。東京レーニア山を水源とする湧水は火山の恵みで、すっきりとした味わいがお土産としても非常に人気。

山風に負けない新型「物干し竿」開発

東京レーニア 山開きで盛況

豊洲登山口に長蛇の列

東京レーニア山が今年も観光客で賑わい始めている。春の景色を楽しもうと、江東区の登山口は連日長蛇の列だ。

「毎年、3月に登っています。今年は孫と来ました」と笑顔で話すのは加笛永森さん(71)。30代の頃に東京レーニア山に魅了され、それ以来毎年欠かさず訪れているという。「3月の東京レーニアは、気温は低いけど空気がうまい。冬を越した花や虫はもちろん、東京の街並みを一望できるのもいいですね」

登山へ向かう人々＝23日撮影

東京レーニア山保全協会によると観光客は年々増加傾向にあり、今月の時点ですでに年間訪問者数が前年を上回る予測が出ているという。

「国内はもちろん、海外からのお客様も多いです。来日した映画俳優やアーティストが、東京レーニアの写真をSNSにアップしていることも影響していると思います。山をモチーフにしたお菓子やぬいぐるみなどお土産の種類もどんどん増えていますし、今ではほとんどの東京観光ツアーに東京レーニアを眺めるポイントが含まれていますよ」と保全協会職員の栗井未衣さん(39)は語る。「登山だけでなく、麓でキャンプをしたり、橋の上や建物の屋上からぼんやり眺めるだけでもいい。色々な楽しみ方ができるのが魅力です」

東京の街並みとその奥にそびえる東京レーニア山＝23日撮影

レジャー各社も新企画

観光バスツアー大手の「はとバス」では観光客の増加を受け、東京レーニア山を巡るツアーが次々と企画されている。

「写真撮影に特化したツアーを考えています。屋根のないオープンバスからの撮影はもちろん、東京湾に映る『逆さレーニア』や山頂部に太陽が重なる『ダイヤモンドレーニア』など、1日の中で刻々と移ろう東京レーニアの姿を楽しんでいただきたいですね」と、ツアーの企画担当者も気合十分だ。

また、東京レーニア山を眺めるために多くの人が訪れる六本木ヒルズの展望台も新たな取り組みを始めようとしている。海抜270㍍から東京の街並みを一望できる「スカイデッキ」の一角を東京レーニア山の観賞専用コーナーとするというもので、雄大な山と街の風景をリラックスしながら楽しめるよう整備を進めていく予定だ。広報担当者は「東京レーニア山を見るならここだ、と今以上に言われることを目指して様々なイベントを開催していきたいですね」と攻めの姿勢。

山とウェルビーイング 専門家語る

本格的な山シーズンとなる初夏を前に、レジャー企画者たちの仕事はまさに「山場」を迎えている。

なぜ人は山に集うのか。予防医学研究者の石川善樹さんは、ウェルビーイングの観点から分析する。「山岳信仰に代表されるように、日本人は山とのつながりが深い民族です。山には畏敬の対象としてだけでなく、生活に疲れたときにふらっと行ける『もうひとつの居場所』という側面もありますが、これはとても重要なことだと考えています」

石川さんによれば、居心地のいい場所を複数持っていることはウェルビーイングと密接に関係するという。「例えばずっと会社一筋で過ごしてきた人が、定年してから居場所を見つけられず困ってしまうということがよくあります。居心地がいいと思える場所を複数持っていれば、そんなときでも気持ちのバランスを取ることができますよね。山はひとりでも、誰かとでも行くことができますし、さらに自然とのつながりまで感じられる。拠りどころのひとつとして理想的なのではないでしょうか」

長い歴史の中で培われてきた、人と山の関係性。オンラインメディア「ハフポスト日本版」では、石川さんと共にこの内容をさらに深掘りした記事を公開している。ぜひ広告欄の二次元バーコードからご覧いただきたい。

●あのまちコラム

「レーニア湯」人気沸騰

壁画修繕のために休業していた銭湯「レーニア湯」(台東区浅草)が営業を再開。美しく塗り直された東京レーニア山の壁画がお披露目された。

レーニア湯は、活火山を作ったマグマの熱を利用した天然温泉の銭湯で、都内に数多くある温泉銭湯の中でも人気の老舗。開業以来、地元住民のみならず多くの観光客を癒してきた。シンボルである東京レーニア山の壁画は老朽化が懸念されていたが、5代目店主の佐藤梨世さん(27)がクラウドファンディングの助けを得てその修繕に挑んだ。

「東京レーニアを見ながら、熱いお湯に浸かり1日の疲れを癒す。まさに火山の恵みですね。ずっと前から続いてきた営みを、この先にもつなげたいと思いました」と語る佐藤さん。内装もあえて元の形を維持しながら修繕し、先代からの風景を守り抜くことにこだわった。その一方で、新しいチャレンジも始めているという。

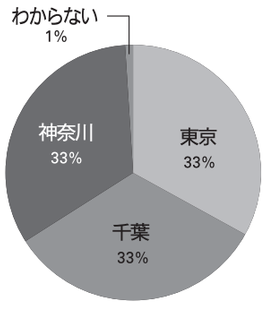
「脱衣所前に小さな休憩スペースを作りました。今までは牛乳しか置いていなかったのですが、カフェラテも用意してみたんです。甘すぎず苦すぎない味が、うちらしいかなって」

佐藤さんは嬉しそうに語る。営業再開当日には、風呂上がりの一杯を楽しむ人が多く見られた。受け継ぐものと新しいもの。熱い想いがレーニア湯を沸かせている。

営業を再開した銭湯「レーニア湯」＝23日撮影

東京レーニアが美しく見える場所は?

東京・千葉・神奈川の3都県対立



「どこから見た東京レーニア山が美しいか」アンケート

東京レーニア山の絶景ポイントを巡って、各地域の対立が続いている。東京側から見る「表レーニア」、千葉側からの「裏レーニア」に加えて神奈川も名乗りをあげるなど、絶景の争奪戦はまだまだ混迷を極めそうだ。

山声人語

もしも東京の真ん中に、山があったら。30周年のマウントレーニアが、紙面でそんな想像を大真面目に形にしているのには理由がある。山はマウントレーニアの原点であり、見る人の心を穏やかにする「拠りどころ」でもあるからだ▼1993年、森永乳業の社員がシアトルの街角で見かけたテイクアウトのカフェラテにヒントを得て、マウントレーニアが生まれた。名前の由来は、カフェラテの聖地・シアトルの名峰レーニア山。富士山に似たその形から「タコマ富士」とも呼ばれ、シアトルに移住してきた日本人たちが故郷を思い、心の支えにしてきた山。そんな街の安らぎの象徴から、名前をもらった▼それから30年。世の中は目まぐるしいスピードで変わっていく。昨日まで当たり前だったことが、今日には古くなっている日々。様々な生き方や働き方が認められて軽やかに感じる一方、ほんの少しの風でどこかへ吹き飛ばされてしまいそうな孤独や不安を感じたりもする▼マウントレーニアは思った。こんな今だからこそ、ずっと同じ場所にいて、いつでも寄りかかれる存在が必要なんじゃないか。そう、シアトルの人々にとってのレーニア山のように▼こうして生まれたのが、東京の真ん中にそびえる巨大な「東京レーニア」。1日の始まりや終わり、ふと顔を上げるとそこにある。何も言わずにそばにいる。そんな存在に、マウントレーニアはなりたいと思う▼1杯のカフェラテで、あなたの今日がやさしくなりますように。

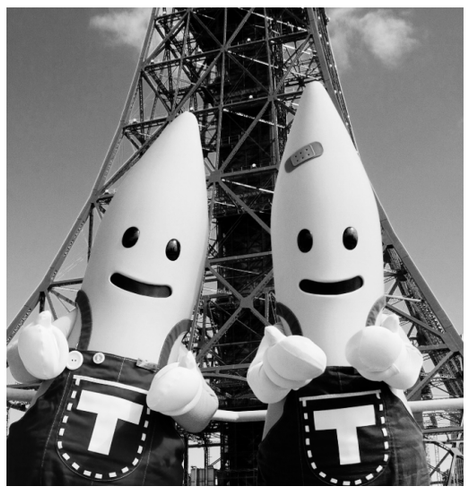
2023・3・24

「もしも東京の真ん中に、山があったら」特設サイト公開中。広告面の二次元バーコードからアクセス。

東京レーニアを巡るなら！

株式会社はとバス

石川善樹さんと考える
今、ウェルビーイングに
必要なこと。
HUFFPOST


東京レーニアがよく見える!
東京タワー

Mt.RAINIER 30TH
NEW DESIGN!
山が大きくなってリニューアル

morinaga 森永乳業